

第34回日本証券アナリスト大会を終えて

大会実行委員長 成瀬 順也 CMA
(大和証券)

第34回日本証券アナリスト大会は、去る10月11日（金）に経団連会館の国際会議場・大ホールにて開催されました。翌12日に台風19号が関東地方に接近するという予報の下ではありましたが、参加者総数は記念講演・パネルディスカッション・懇親パーティーを合わせ、延べ1,050名を超える大盛況となりました。会場にお運びいただいた皆さまに、厚くお礼申し上げます。また、台風19号により被災されました皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧をお祈り申し上げます。



総合司会の成瀬大会実行委員長

今年の大会テーマは「東京五輪後の日本～サステナブルな成長を目指して～」です。当大会の実行委員会では、大会テーマを決めるに当たって侃々諤々の議論が繰り広げられましたが、最後に残ったキーワードが「東京五輪」と「ESG」でした。2020年10月の次回大会では遅過ぎるから今こそという東京五輪派と、当協会でも散々セミナーや論文紹介は行っているが大会でも再度しっかりまとめておきたいというESG派に真っ二つ。最終的には、じゃあ両方やっちゃおうということに相成りました。

五輪については、開催国の過去の経験から前年が景気のピークになることが多く、競技大会に向

けての盛り上がりとは裏腹に、景気への先行き懸念が大きいです。ESG投資も同様で、裾野に広がりが見られる一方で、短期的なパフォーマンスを追い求める向きからは早くも期待外れとの声が上がっています。どちらも長期的な目線でのサステナビリティが大事ということを接点として、本テーマの下で議論を深めていくこととなった次第です。

実行委員会での、もう一つの大仕事が人選。講師、パネルディスカッションの司会者、パネリストとして今年のテーマにふさわしい、それもアナリスト大会という場にふさわしい候補者を幅広く挙げ、協会事務局からいただいた招致可能性のア

ドバイも踏まえた上で、候補者を絞り込んでいきました。事務局による精力的な招致が実り、実行委員会の希望に沿った講演者、司会者、パネリストをお呼びできたことが、本大会が盛況となった大きな要因と考えています。

実際の講演やパネルディスカッションの内容は別稿（当証券アナリストジャーナル誌の今月号ならびに来月号）にて記載されておりますので、ここでは詳しく述べませんが、筆者の印象に残った点を中心に、簡潔に記させていただこうと思います。

記念講演Ⅰは、日本が誇るスプリンターであった為末大氏。いや過去形は失礼かもしれません。今でも男子400メートルハードルの日本記録保持者でいらっしゃいます。五輪での転倒シーンや、世界選手権での銅メダル獲得シーンなどが会場で投影され、筆者も含めた、ある世代以上にとっては懐かしくもあり、目頭が熱くなる場面もありました。その失敗を突き詰める姿勢や現在行われている活動につながるお話を聞くにつれ、われわれが想定していた以上に本大会の全体テーマにぴったりの講演と大変感銘を受けました。実行委員会では、証券アナリストの集まりという大会の性格上、チームスポーツの関係者による組織論を推す声もありましたが、為末氏にお越しいただいて本当に良かったと思います。

記念講演Ⅱは、日本航空初のパイロット出身の社長として経営破綻後のJALのかじ取りを担われた植木義晴氏にご登壇いただきました。大変示唆に富んだ講演でありましたが、講演冒頭のご宣言通り、午後一番けだるい時間であっても聴講者の眠気を吹き飛ばす、笑いを大いに誘うお話しぶりでもありました。講演直後、筆者は植木氏にJALの他のパイロットの皆さんにも日本のいろいろ

な会社のトップになっていただいたら…などと、つい話しかけてしまいましたが、かくいう自分の後任もパイロットじゃないくらい（現社長は整備部門のご出身）だから、それほど単純なものではないとおっしゃっていた姿が印象的でありました。

パネルディスカッションでは、エーザイ(株)専務執行役CFO兼早稲田大学大学院会計研究科客員教授の柳良平氏の司会の下、MSCI INC.マネージング・ディレクター内誠一郎氏、いちごアセットマネジメント(株)代表取締役社長スコット・キャロン氏、コニカミノルタ(株)代表執行役社長兼CEO山名昌衛氏により、時に証券アナリストへの厳しいご意見や高い期待も織り交ぜながら議論を進めていただきました。司会の柳氏、パネリストの御三方いずれも単独でご講演いただかないと勿体ないようなメンバーにご参集いただきましたが、活発なディスカッションを繰り広げていただき、いつまでも終了時間が来なければよいのと思う、あつという間の100分間でした。

証券アナリストジャーナル賞及びディスクロージャー優良企業の表彰後、村松高明大会実行副委員長の司会の下、懇親パーティーが開催されました。多くの方とお話しさせていただきましたが、総じて好意的なご感想やご評価でしたので、大会を無事終えられたと安堵いたしました。最後に、この大会を成功裏に終えることができましたのも、ご多忙の折ご参加くださったご来賓や記念講演にご登壇された講師・パネリストの方々、そして入念に準備を進めていただいた大会事務局及び実行委員諸氏ののご尽力の賜物であると痛切に感じております。この誌面を借りて深く感謝申し上げます。